

人に笑って、喜んでもらえる仕事って「めっちゃいい」

— お笑いの世界を目指したきっかけを教えてください。

高校3年生のとき、学園祭の出し物が決まらなかったのですが、クラスのみんなで映画を作ったらいんじゃないかと提案したんです。映画だったら、当日は上映するだけで済むから、他のクラスの出し物を見て回って学園祭を楽しめると思って。

— そうして、「君を待たせない」というモテない男子が主人公の映画を作るようになったのですが、誰もモテない男子は演じたくないってことで、結局、監督、脚本、主演、動画の編集まで言い出しっぱの僕がやる羽目になってしまったんですけどね（笑）

— 学園祭の当日は、自分が笑いを狙ったシーンで笑いが起きたり、上映会に来た人に面白かったよと言われたりすることが嬉しくて、結局一日中会場に張り付いていました。

— 元々僕は、人前で話すことや目立つことがあまり得意ではなかったのですが、その時に、こうやって人に笑って、喜んでもらえる仕事って「めっちゃいいなって思ったんです」。

「母心」の相方、嶋川さんとの出会

— どのようなきっかけで、コンビを結成されたのですか？

僕は吉本興業の、地方のお笑い大会で優勝したのをきっかけに吉本に入り、嶋川さんが座長をしていた吉本弁当座の一員になりました。

— 嶋川さんの印象は、Theリーダー”っていう感じでしたね。当時の彼は、真面目で、よく怒っていたし、お互い良い印象は持っていなかったと思います（笑）

— ある時、弁当座の公演で、僕と嶋川さんともう一人の先輩の3人組で即席コントを作るとい企画があったんです。



「母心」の漫才は、常陸多賀の「かどや寄席」でも大人気！

人生最期まで 漫才師でいるために チャレンジし続けたい

漫才師

関 あつし さん

シリーズ「ふるさと日立大使 Interview」では、11名の大使の皆さんをお一人ずつクローズアップしてご紹介します。今回ご登場いただくのは、漫才師の関あつしさん。絵本作家としても活躍されている関さんに漫才師や絵本作家になったきっかけや日立市への想いなどを伺いました。

関 あつし 日立市出身
2008年、嶋川武秀さんと漫才コンビ「母心」を結成。
2012年、(一社)漫才協会に入会する。
2014年、「漫才新人大賞」を受賞。
2019年、漫才大会第50回記念特別公演「漫才協会王座決定戦」で優勝する。
国立演芸場主催の花形演芸大賞では、2012年に銀賞、2022年に金賞を受賞。
2021年、「らっかせい鳥の生態」で絵本作家デビュー。マルチな活動を展開。

嶋川さんが、巖流島のコントを書いてほしいと言うので、宮本武蔵と佐々木小次郎が対決する時に、「武蔵のお母さんがモンスターペアレントだったら」というコントを考えました。

このコントでは、嶋川さんに女装してもらいお母さん役をやってもらったんですが、その時の嶋川さんの「オカンキャラ」がすごく面白かったんです！僕の作ったコントの質を120%にまで引き上げてくれた感覚があって、苦手意識はあったけど「この人すごいかな!?」って思ってたんです。

その後、嶋川さんと飲みに行ったらときに、僕の方から「コンビ組みませんか？」って誘ったのが「母心」の始まりです。嶋川さんの「オカンキャラ」の誕生とともに、コンビ名も「母心」となりました。

人生最期まで漫才師でいたい！

— 絵本作家としても活動されてますね。デビューのきっかけは？
元々、絵を描くことが好きだったので、いつか絵本を出したいという思いはありました。

40歳になったとき、嶋川さんといつまでも第一線で



絵本作家デビュー作品
「らっかせい鳥の生態」

漫才を続けるためには、新ネタを作り続ける必要がある。だから、40代は「自己投資」して行こうって話をしていきました。

それで、嶋川さんは政治家（富山県議会議員）に、僕はイラストを描いたり、特撮映画を作ってみたりとか、いろいろやりたいことにチャレンジし始めたんです。その一環で、電子書籍を出したり、紙の絵本を作成し、受注販売などにもチャレンジしました。



電子書籍「あれなんじゃ？」

— 漫才師としての今後の目標は？
最終的には、自分たちのさまざまな経験を漫才で表現できたらいいなと思っています。僕は、人生最期まで漫才師でいたいと思っていますので、お互いが経験した話をネタに、おじいちゃんになってからもずっと新しい漫才がしたいですね。

離れて実感！日立の良いところ

— 日立市の良いところは？
かみね公園が「めっちゃ」好きなんです。小さい頃から何度も

行ってますし、それこそ嶋川さんも連れていきました。動物園や遊園地が身近にあるっていうのは、地元の人からすると当たり前だと思うかも知れないですが、日立を出てからすごく恵まれた環境にいたんだなと思いますね。

先日初めて知りましたが、ランドセルが無料でもらえることも当たり前だと思っていましたから。

ふるさと日立大使としての活動の抱負は？

以前、同じく大使の上妻宏光さん（三味線奏者）とお話する機会があったんですが、大使が集まって、ピアノや三味線、漫才などのイベントを開催し、市民の皆さんに各大使の活動を知ってもらう機会を作りたいですね。いろいろな方面で活躍されている大使が集まって、年に1回でもイベントを開催すれば、大使同士のつながり

若者が挑戦できるまちに！

— 最後に、日立市への想いをお聞かせください。

若者が主役となって活躍できるまちになってほしいですね。若者には自由にやりたいことに挑戦させてあげて欲しいし、失敗したとしても日立市にはフォローしてくれる大人が周りにたくさんいるというような環境を作ってほしいと思います。

今はちょっと元気ないかもしれないけど、逆に新しいことを始められるチャンスと捉えて、日立市は若者がチャレンジできるまちって認識してもらえれば、まち全体がもっと元気になっていくんじゃないかと思っています。



豊浦小学校創立150周年
記念イベントで作成したイラスト



漫才や日立への想いを熱く語る関さん

